

気仙沼にどのような専門学校があれば 地元に残れ、人を集められるか？

221班 熊谷雅也 高橋杏奈 高須万悠 須藤千那

I 序論

高校卒業後は進学するために
気仙沼を離れてしまう

大学誘致はリスクが大きく難しい

どのような専門学校であれば
人を集められるか？

II 本論

根拠1 余っているものを使う

表1 SWOT分析～気仙沼の現状～

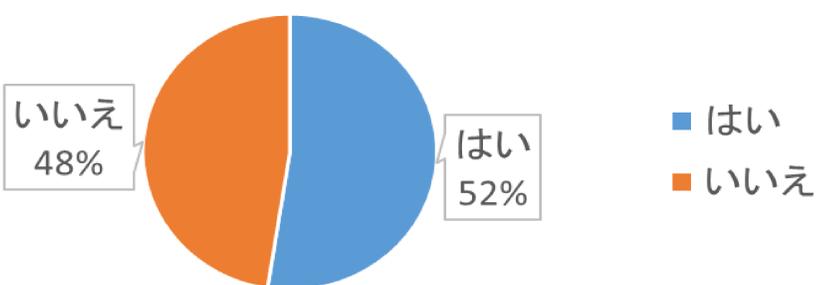
	O(機会)	T(脅威)
S(強み)	水産業が全国的に有名	過疎化により土地が余っている
W(弱み)	統合で余っている校舎がある	進学のために気仙沼を離れる

余った校舎を 再利用できないか？

根拠2 気仙沼で進学したい という人が多くない

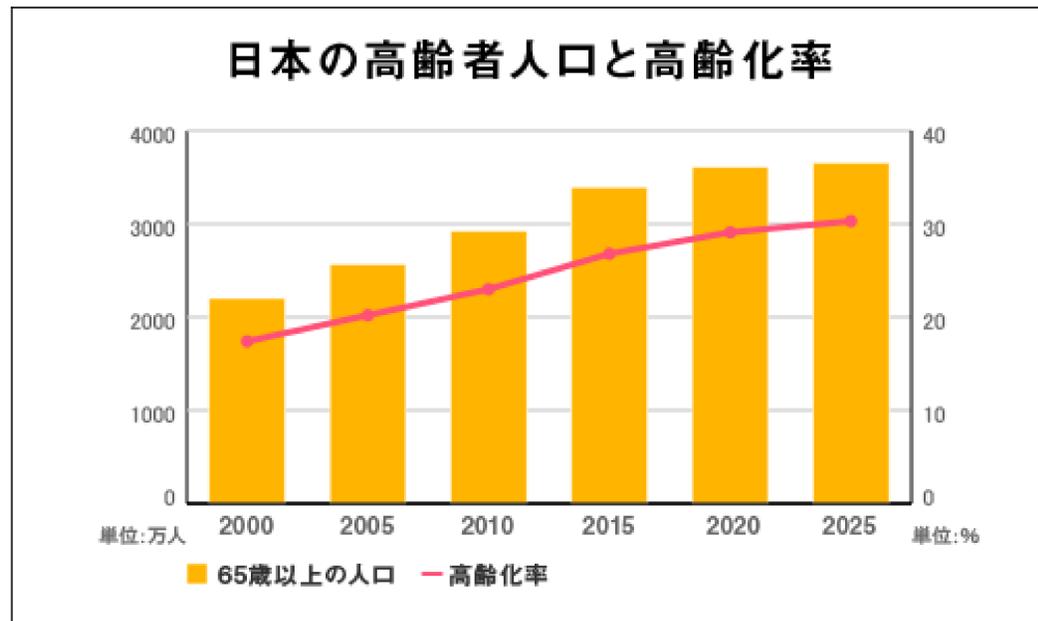
表2 アンケート結果

気仙沼にあなたの進路に準ずる専門学校があれば進学したいですか



若者向けの学校は厳しい

根拠3 老年人口が増加している⁽¹⁾



高齢者をターゲットにできないか？

III 私たちの班の提案

高齢者や社会人をターゲットとした、学び直しのための学校をつくれば人を集められるだろう。
また余った校舎を再利用すればコストも抑えられる。



IV 結論

余っている校舎等を利用し専門学校をつくることは可能であるが、気仙沼が不便なため気仙沼で進学したいという人が少ないことから地元に残る人のために学校を設立することは厳しい。

しかし、老年人口の増加より高齢者の学び直しのための学校を設立することだったらリスクは小さくなる。これからの学校は、社会人や高齢者などをターゲットにすればよい。

V 課題

気仙沼の高齢者が学び直ししたいかどうかの需要が調べられなかった。

参考文献

(1) 日本の高齢者人口と高齢化比率
(出典:厚生労働省)